

サーチライト With Pastor Jon 創世記 11 章

「今日、もし御声を聞かぬなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りょくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

創世記 11 章 1-3 節

1 さて、全地は一つの話しことば、一つの共通のことばであった。

2 人々が東の方へ移動したとき、彼らはシナルの地に平地を見つけて、そこに住んだ。

3 彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作って、よく焼こう。」

彼らは石の代わりにれんがを、漆喰の代わりに瀝青を用いた。

これに関しては日曜日にお話したように、シナルの地には岩がなかったので建材に煉瓦を用いていて、ニムロデは彼らが煉瓦を焼くところも、瀝青を使う場面も見ていたんですね。

だから、この巨大な塔を建てるのにも煉瓦を用いたのです。

4 彼らは言った。「さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届く塔を建てて、名をあげよう。

われわれが地の全面に散らされるといけないから。」

この塔は、人々を一致させるものでした。

神は言いました。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」(創世記 9:1)

ニムロデは言いました。「さあ、一致団結しよう！」

彼は神に逆らい立ち、天体観測のためにこの塔を建てたのです。

神に従う代わりに塔の頂上に立ち、天を仰いで星や何かから指南を得る。

いわゆる星占い、占星術。

神に答えを求めるのではなく、神が禁じた異国の習慣である空の星に求めました。

それだけでなく、当時建てられた塔は、古代文化の中で交信を行う場でもあり、考古学によって、今日でもイラクにその土台となるものが発見されています。

この塔の中には、交信に用いた水晶も発見されており、どのように用いられたのかは知る由もありませんが、考古学研究によって、この塔が天体観測だけでなく、交信のために用いられたことも明確に証明されているのです。ここで、太古の人々について語る時、忘れてはならないのが、“太古の人々は知能が低かった”というのは嘘であるということ。

石壁やピラミッドなど、インカ帝国やアンデス文明について発見されるにつれ、現代の私たちが未だに理解できないことを、彼らは既に知っていたということが分かります。

エジプトのピラミッド一つとっても、どうやって造ったのか、今日でも(*1997年)全く理解できていません。どのようにして数式を割り出し、どのようにあの巨大なピラミッドを建てることができたのか、今の私たちにはその技術もなければ、エジプトの人々が当時使ったような道具もないのです。

そして、当時の人たちは携帯電話でなく、水晶を使って互いに交信していたことは明らかで、それは、太古バビロンの偽宗教制度から来るニューエイジ思想へと繋がっています。

とにかく、この塔の大きな目的は、何マイルにも広がる人々の間の交信のためで、だから、ニムロデやバビロンの人々は言ったのです。

「頂きが天にまで届く塔を建てよう！」

更に、一つの話し言葉が使われていたことが、彼らを団結させました。

5 そのとき主は、人間が建てた町と塔を見るために降りて来られた。

6 主は言われた。「見よ。彼らは一つの民で、みな同じ話しことばを持っている。」

このようなことをし始めたのなら、今や、彼らがしようと企てることで、不可能なことは何もない。」

神は言いました。「見ろ。彼らは同じ言葉を話すから、その考えを止めるものは何もないのだ。」

神は以前にも言いましたね。

その心に図ることがみな、いつも悪に傾く（創世記 6:5）

ここで言ったのは、「彼らが皆、一つの言語、一つの言葉で話すから、団結して好きなことをする。

そして、彼らを止めるものは何もない。」

皆さん、1997年の今、私たちは再び一つの言語を話しています。

私たちの世代は、バベルの塔以来、初めて、一つの言語を話しているのです。

一つと同じ言語とは、数学言語。それが、全世界を繋ぎました。

つまりコンピューター。

今は、全世界が同じ言語を話し、オンラインで交信し、英語で書いたものが中国では中国語に、日本では日本語に変換されます。

過去 10 年の間に、バベルの時代以後初めて、コンピューター技術の進化によって、再び一つの言語で交信するようになりました。

そうして、人間の可能性に限界がなくなり、それらは悪へと傾いている。

今年初め（*1997年）に話題になったクローンの子羊を見て下さい。

かわいいクローン子羊のドリーは、子羊の姿をして後にやって来る、恐ろしいものを示唆しているのです。

子羊を選んだところが、また興味深いんだけど…

ここで止めておいた方が良さそうなので…とにかく興味深い。

これが示すのは、間違いなく、私たちが反キリストの時代へと突入したということ。

何も不可能はない。何でもできる。

それを見て、神は言いました。

「同じ言葉を話すから、頭に思い浮かぶことが何でもできるのだ。」

7 「さあ、降りて行って、そこで彼らのことばを混乱させ、互いの話しことばが通じないようにしよう。」

父、御子、聖霊の三位一体の神が「さあ、降りて行こう」

「降りて行って、ニムロデ、反キリストによる世界統一政府、世界統一技術、世界統一宗教を止めさせよう。」

同じようにして、イエス・キリストも降りて来て、反キリストの悪行を止め、全てを正しく治められる。

この箇所は、その預言を表すものです。

「さあ、降りて行って、」 イエス・キリストは誰と降りて来ますか？ 戻って来ますか？

天の軍勢は白くきよい亜麻布を着て、白い馬に乗って彼に従っていた。（黙示録 19:14）

「さあ、降りて行こう！」と、主があなたと私に言います。

更には、世界中の国々がメギドの谷に集まって来る。ハルマゲドン。

私たちも降りて行く。

「さあ、降りて行こう！」と言って、主が全てを正す。

11 章では、主が憐れんで、人を分けるために降りて行ったのです。

9 それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。

そこで主が全地の話しことばを混乱させ、そこから主が人々を地の全面に散らされたからである。

ここで、バベルが“混乱”という意味になりました。

元々の意味は“天国への入口”

それが、今は意味が変わって“混乱”

これは最初、天国への入り口だと思っていたもの、すなわち技術、一致、パワフルで影響力があるカリスマ的リーダーのニムロデについて行くことなどで成し遂げられると思ったものは、最終的には完全に混乱を招くということ、バベルとなることを証明しています。

次に、話は方向転換します。

見逃さないように。重要なところですから。

世の中全体が混乱に陥り、散らされ、バベルとなった。

これで終わり？ また敗者が出る？

いいえ。ここで神は、ある一族へと目を向けます。

それは、アブラハムから生まれる一族。

ここから、話の流れが変わっていきますよ。

今度は、神がご自身を現し、ご計画を示される。

最終的に神は、アブラハムの一族を通して罪を解決されます。

ということで、創世記 11 章 10 節から 26 節はアブラハムの家系一覧です。

神は「世界を大混乱の、バベルのままでは放っておかない。」

「わたしは、一人の男、一つの家族、一つの民族を通して、わたし自身を知らしめる。

そうして全ての国々が、わたしが誰であるか知り、わたしの計画を、アブラハムとその子孫を通して、全世界が見ることになる。」

この時点ではアブラハムではなくアブラム。

後になって、名前がアブラハムに変わりましたね。

27 節から 32 節は、アブラムの親族関係。

これを学んで終わります。

27 これはテラ（アブラハムの父親）の歴史である。

テラはアブラム、ナホル、ハランを生み、ハランはロトを生んだ。

つまり、アブラムとナホルとハランは兄弟。

だから、ハランの息子ロトはアブラムの甥。

これから話が進んで行くと、このことが重要になります。

テラの意味は“遅延”“遅らせる”

なぜかと言うと、神はアブラハムに語ったんです。

どのように語ったかは 12 章で学びますが、「父、家族、国を離れなさい。」

しかし、アブラハムの兄弟のハランが、

28 ハランは父テラに先立って、親族の地であるカルデア人のウルで死んだ。

ウルはバビロン、当時のニューポートビーチ。

ウルは、他のどこよりも早くバスタブが使用された所、ホットタブ、バブルバス、富が溢れ出る。

カルデア人のウルは、文字通り魅力的な、富が溢れる贅沢の窮みの町でした。

アブラハムはそこに兄弟と一緒に住んでいましたが、兄弟の一人ハランが死んだ時、その息子のロトがアブラハムの傘下に入ります。

12章で神はアブラハムに、「あなたの父、あなたの家族を離れなさい。」「離れなさい！」と言いますが、ここでは、これからの物語の前段階が整えられています。

この時点で彼はまず、妻を娶るという正しいこと、良いことをしました。

29 アブラムとナホルは妻を迎えた。アブラムの妻の名はサライであった。

サラの名で知られていますね。

30 サライは不妊の女で、彼女には子がいなかった。

彼らは一緒に、約束の地カナンに向かって、カルデヤ人のウルを出発しました。

こうして12章へ続き、アブラム、アブラハムの素晴らしい話が始まります。

人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。

そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。(ヤコブ 1:14-15)